

4月26日 | 新茶まつり

お茶の郷博物館で恒例の「新茶まつり」が開かれ、新茶シーズンを盛り上げる多彩なイベントが催されました。

会場では、呈茶サービスや新茶詰め放題、茶娘衣装体験や手摘み体験などが行われ、多くの家族連れでにぎわいました。屋外では、人工雪を使った季節外れの「雪国体験コーナー」も登場。子どもたちは白ともえぎ色の景色の中、大はしゃぎで雪遊びを楽しんでいました。



4月5日 | 地元の職業をわくわく体験

市内の商店などで、子どもたちが職業体験できる「こどもわくワーク」が開催され、小学2年生から4年生までの児童66人が、さまざまな職種の仕事を体験しました。

協力店の喫茶店では、メニューの説明や提供などに挑戦。作業を終えた児童たちは「レジ打ちもできて楽しかった」「お客様の笑顔が嬉しかった」と働いた感想を満足げに話してくれました。

4月21日 | 一杯の新茶にいっぱいの笑顔

本格的な新茶シーズンを前に、市役所ロビーに特設コーナーが設けられ、新茶の無料呈茶サービスが行われました。

地元茶をPRしようと、市茶業振興協会島田支部が実施。日本茶インストラクターと茶娘らにより、手摘みした新茶が来庁者に振る舞われました。初日は、茶娘が「えい茶いくん」と一緒に声を掛けて回ると、多くの市民の皆さんが足を止め、香り高い新茶を笑顔で味わっていました。





4月12日 | 古式ゆかしく「猿舞」を奉納

東光寺の日吉神社で、300年以上も前から伝わる「猿舞」が、古式ゆかしく奉納されました。雌雄の猿の面を付けた地元の子どもがユーモラスに舞うこの猿舞は、県の無形民俗文化財に指定されています。

今年の舞人を務めたのは、^{かめやまとわ}亀山永遠くんと^{ゆうな}優菜さんの兄妹。息の合った二人は、小猿の面を被って三種の舞を披露し、五穀豊穰と無病息災を祈願しました。

4月24日 | 大輪のボタンが美しさを競演

旗指の^{じょうこじ}静居寺の参道沿いで、初夏を告げるボタンの花が満開となりました。

20年ほど前から植え足されている大輪のボタンは、現在は約120株。白・ピンク・赤・赤紫など、毎年色とりどりの花を咲かせて、約30mの参道の両脇を彩っています。温かな陽気に刺激され一気に咲き競う豪華な花々は、訪れた多くの人の目を楽しませていました。



4月30日 | 伊久美っ子の図書コーナー

伊久美小学校の図書コーナーが新装され、リニューアルを祝う記念式典が開かれました。

新しい図書コーナーは、県総合教育センターや市図書館の協力で、書棚の配置などを再検討。児童が集中して読書や調べ物に取り組めるように配慮されています。図書担当の教員は「小規模な学校では児童の自発的な学びが大切。利用法を教える指導にも力を入れたい」と話しました。

